



新年のごあいさつ



芦屋ユネスコ協会会長 廣瀬 忠子

明けましておめでとうございます。

昨年度も、会員・市民の皆様のご協力により、
いろんな事業や行事を実施することができ、ユネスコの使命を力強く果たし
ていただきましたことに、心から感謝申し上げます。

昨年は「終戦 70 年」という節目の 1 年でしたが、来年 2017 年には「民間
ユネスコ運動 70 年」という記念すべき年を迎えます。芦屋ユネスコ協会も設
立 70 年の活動が定着してまいりまして、特に近年「書き損じはがきの回収」
「各学校巡回出前講座」「E S D 参加校誕生」「芦屋の未来遺産継承運動」など、
役員各位のご努力で大きな成果を挙げていただいております。

私たちの運動の使命は「心の中に平和のとりでを築く」というユネスコ憲
章の理念の下、平和な地球社会を目指して、グローバルな視点を持ちつつ、
数多くの事業や行事を行う中で、市民の皆さんの心に「平和の種」を撒き続
けてまいりたいと願っております。そのためにも、会員の皆様には各種の事
業や行事に奮ってご参加いただきたいと、願ってやみません。

本年も、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

私たち一人ひとりの力は小さくとも、目標を見失うことなく、若い世代も
巻き込みながら、今年も頑張ってまいりましょう。

新年に当たり、ご挨拶申し上げます。

芦屋ユネスコ協会 2015 年度 年末講演会&親睦会 開催

昨年 12 月 15 日(火)午後 6 時から、来賓・会員 90 名の参加を得て、恒例となりました「年末講演会&親睦会」が、ホテル竹園において盛大に開催されました。



開会冒頭の会長あいさつでは、ご来賓へはご参加のお礼、加えて芦屋ユネスコ協会の 2015 年度の事業(世界遺産・地域遺産バス旅行、P R 街頭行事、8 月 15 日の平和の鐘を鳴らそう行事、書き損じハガキの回収、学校への出前授業、東北震災募金など)にふれ、「芦屋ユネスコ協会はユネスコの精神に基づいた世界の平和と人類の福祉の向上に関する力強い活動を継続的に実践し、常にマスコミにも取り上げられるなど、他の協会からも羨ましがられる活動を積極的に実施しており、これも皆様のご尽力の賜物」であると、感謝の言葉が述べられました。



恒例の年末講演会には、今年も特命全権大使(関西担当)政府代表・三輪 昭様から「我が国をとりまく国際情勢」について、ご講演をいただきました。



お話の概要は、「現在の国際情勢は危険で複雑である。21 世紀は、大変な世紀に入っており、日本も安全が保障されない状況である。米国・中国・シリア・タイ・ミャンマー・インド・ブラジルもそれぞれに問題を抱えており、テロリズムの台頭などに対する日本の外交が重要な課題になっている。2016 年 6 月には、伊勢志摩サミットが開催されることになっており、西側結束のための良い機会にもなる。日本のリーダーシップに多いに期待したい」など、示唆に富んだ貴重なお話を伺うことができました。

この後、ユネスコ「世界寺子屋運動」「東北震災支援」の基金を今年もご寄付いただいたN・G・Pプロティーチングゴルフ協会会長の山下義房様に、廣瀬会長から感謝状が贈呈されました。



引き続き開催された親睦会では、山中 健 芦屋市長(当協会顧問)から開宴のあいさつがあり、会場が一体となってユネスコ活動を活発してゆくことを強く訴求され、高らかに乾杯の音頭をとっていただきました。

ディナータイムでは、和やかな懇談と共に美味しいお料理に舌鼓を打ちました。



途中から始まった恒例のビンゴゲームでは、参加者ご提供の数多くの豪華景品を勝ち取り、大いに盛り上がりました。このビンゴゲームでの協力金は8万8,000円となり、またその他のご寄付を1万8,700円をいただきました。併せて、感謝とともにご報告させていただきます。



続いてのエンターテイメントでは、声楽家・山崎直美様のソプラ独唱を、ピアニスト・坂原久子さんの演奏で美声に聞き惚れたあと、歌唱指導では、「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」を全員で鈴を鳴らしながら全員で熱唱して盛り上がりしました。

締めくくりは、福岡 憲助 芦屋市教育長(協



会顧問)から、会員の皆様が素晴らしい新年を迎えられ、益々の発展を祈念する旨の閉会のご挨拶をいただきました。

そのあとライトダウンした会場の中で、全員で手を繋ぎ、輪になって「蛍の光」を歌い、絆を深めながら、2015年度の年末最終のユネスコ行事を盛大に終了することができました。

皆さん、本当にありがとうございました。

(文責: 山田 利郎事務局長/
写真: 南 ゆう子会員)



《近畿ブロックユネスコ活動研究会報告》

秋晴れのなか、昨年10月24日(土)、ユネスコ創設70周年記念「2015 近畿ブロックユネスコ活動研究会 in 福知山」がホテルロイヤル福知山&スパを会場に開催され、参加者数約250名、芦屋ユネスコ協会からは由里副会長と塩井・永井常任理事の3名が参加しました。

開会式に次いで、明智光秀の子孫という明智憲三郎様を講師に迎え、福知山の歴史にふれる記念講演「本能寺の変431年目の真実」があり、たいへん興味深くお話を拝聴しました。

明智憲三郎様は、これまで本能寺の変の調査・研究を続けてこられ、「歴史捜査」と名付けた工学的手法により、その全貌を科学的・論理的に解明されてこられたとのことでした。

そのあと披露された「福知山踊り」で、会場はさらに和やかなムードで満たされました。

休憩をはさんで行われた「活動報告」でも、たいへん興味深いお話がうかがえました。

福知山市立南陵中学の「世界寺子屋運動—国際協力ボランティア活動」報告では、書き損じはがきの回収キャンペーンを広範に展開させたこと、また生徒会活動として災害ボランティアやPTAと共同で「ネットトラブル防止活動」を進めるなど、ユネスコの「ESD活動」にも先駆的役割を推進していることなどが紹介されていました。

さらに「未来遺産」事業においては、登録を目指して「“うぶやの里”伝承運動」に取り組まれているということで詳細な説明をされ、日本の歴史の勉強になりました。

大阪市立鶴見橋中学校からは、「ESDパスポートの活用事例」について発表があり、東日本被災地支援ボランティア活動から学ぶ「人権・子ども防災プロジェクトチーム」が結成されたこと、また「ESDパスポート」の導入によって、よりユネスコ活動を高めることができたとの報告がありました。「『いのち』にこだわる中学校でありたい。高校生・大学生になっても、また成人してもボランティア活動を続けたい」というメッセージに、心強い印象を受けました。

最後に、日本ユネスコ協会連盟から「今後の活動に期待し、これからもみんなで力を合わせて、ユネスコ活動をさらに充実させていこうではありませんか」というお話があり、参加者一同、思いを新たにしつつ、今回の「近畿ブロックユネスコ活動研究会」は終了しました。

次回の近畿ブロック会議は、奈良県・吉野で2016年10月15日・16日に開催されます。

<文責:塩井君子常任理事>

115 近畿ブロックユネスコ活動研究会 in 福知山



【参考】ユネスコスクールの現状

- ◆世界 約10,000校(幼稚園～大学)
- ◆日本 939校(幼稚園～大学)
- ◆近畿 6府県105校(幼稚園～大学)
大阪41/奈良30/京都14/
和歌山8/滋賀8/兵庫4





次代へつなごう「芦屋の未来遺産」

～芦屋文化の100年リレー⑤～

芦屋ユネスコ協会では、芦屋市制施行70周年を記念して、平成22年(2010)に冊子「みんなで選んだ芦屋の未来遺産」を、さらに3年後の平成25年(2013)にはその「補完・解説版」を発行しました。

今回は、「補完・解説版」の追加・修正をするため、最初に発行した冊子「みんなで選んだ 芦屋の未来遺産」について振り返り、当時の市民の熱気や思いについて分析してみたいと思います。

■芦屋文化の百年リレー「市民が選ぶ芦屋の未来遺産」

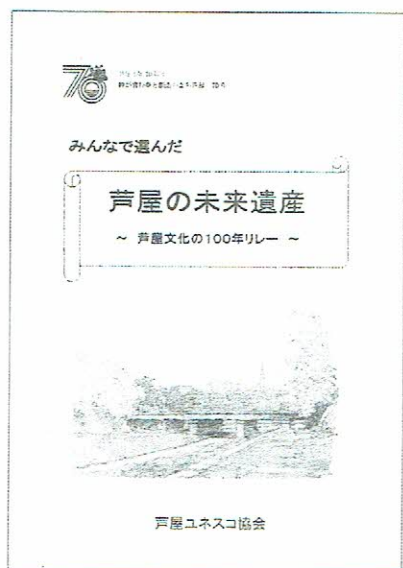
市民の皆さんに芦屋の未来遺産を選んでいただこうと、芦屋ユネスコ協会内に「芦屋未来遺産運動活動委員会」を発足させたのは、芦屋市制施行70周年の前年・平成21年10月のことでした。

翌22年2月末には「市民が選ぶ芦屋の未来遺産」応募用紙を配布、3月1日から6月末まで市民から多くのご回答をいただきました。集計の結果、回答枚数が592枚・延べ件数が1,953件という、実に膨大な応募数となりました。

そして、そのご意見のすべてを掲載したのが、冊子「みんなで選んだ芦屋の未来遺産」でした。

この冊子は、A:芦屋の自然、B:史跡と文化財、C:民話と歌物語、D:郷土資料、E:芦屋ゆかりの芸術・文化、F:顕彰すべき人物、G:まつり、H:芦屋の災害、I:モダニズムとライフスタイル、J:その他の10項目に分類され、まとめられています。

平成22年(2010)の発行にあたり、廣瀬忠子会長の挨拶文には、「私たちの住む芦屋は、自然遺産・史跡と文化財、民話と歌物語、郷土資料・芸術文化・人物・祭り・モダニズム&ライフスタイルも含め、日本でも有数の素晴らしい多くの未来へ伝える遺産を抱える、人口は少ないながら宝石のようなまちです」といった、芦屋というまちへの敬愛が如何なく表現されています。



■多くの市民が選んだ「芦屋の未来遺産」——芦屋川

ご意見の中で突出して多かったのは、何と言っても「芦屋川」。その内容も上流から下流まで、そして川沿いに広がる自然や景観・史跡に及ぶ多岐にわたるというものでした。

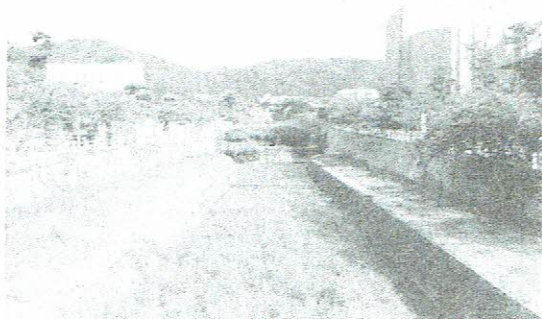
芦屋川は、源流の六甲山地から河口の大阪湾まで、芦屋市域西部を縦断するように流れています。芦屋の地に暮らす人々は、昔から芦屋川がもたらす水の恩恵を受けてきました。しかし、頻繁に洪水を起こす性格を併せ持ち、水害にも悩まされてきました。

昭和13年(1938)に起こった阪神大水害の後、昭和14年～21年の河川改修工事を経て、今日の姿となりました。

流域には、国指定重要文化財の旧山邑家住宅をはじめ、数多くの文化財があり、文化的景観の一部を形成しています。

芦屋川は、平成24年(2012)4月1日に「芦屋川の文化的景観」という名称で、中・下流域が芦屋市指定文化財に指定されました。

(文責・アドバイザー 南 ゆう子)



《恒例一世界遺産・地域遺産見学バスツアーのご案内》

恒例となっている春の「世界遺産・地域遺産見学バスツアー」が、中川理事のご尽力で下記のとおり決まりました。

あおによし 奈良の歴史地区を訪ねる旅

◆日 時 4月6日(水)午前9時(出発)～午後5時(帰着予定)

◆集合場所 午前8時30分に、ホテル竹園・ロビー集合

◆費用 8,000円(昼食代含む)*当日の朝に徴収します

◆申し込み 別紙「申込書」に必要事項を記入し、ファクスで2月末日までに本荘常任理事へ
ファクス送信先 **0797-32-7910** 《本荘美恵常任理事宛》
※ツアー前日・当日のキャンセルについては、後日4,400円をいただきます。
※それ以前のキャンセルについては、キャンセル料金はいただきません。
※バスツアーの詳細については、別添の「申込書」でご確認ください。

【お願い】 ●東日本大震災「子ども支援募金」にご協力をお願いします。

●世界寺小屋運動のための「書き損じハガキ」のご提供をお願いします。

新入会員の紹介

ご入会ありがとうございました。大歓迎申し上げます。

★大内 孝子 様 ★信岡 利英 様 ★若林 伸和 様
★金澤 佳代子 様 ★畑中 カヲル 様

◆編集後記◆



あけましておめでとうございます。
いろんなことがあった羊年も終わり、素晴らしい申年であることを願っています。
今年も、春のバスツアーの申込書を同封いたします。
何度訪れても奈良は素敵です。飛鳥時代へと一緒にトリップいたしましょう。
後の気かりは当日の天候と桜の開花状況ですが、素晴らしい1日となるように期待しつつ、皆様の申し込みをお待ちしております。